

看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム とりまとめについて

1. 趣 旨

経済連携協定（EPA）による看護師候補者への対応に関連して、看護師国家試験における用語を見直すべきではないかと指摘されているところである。そのため有識者による検討チームを開催し、現場に混乱を来さないことに留意して、一般的な用語等の置き換え、および医学・看護専門用語についての対応策等について検討を行った。

2. とりまとめの概要（別紙 1）

医療現場では患者・家族及び医療関係者とのコミュニケーションを適切に行うことや、医療安全の観点からも、相応の日本語の読み書き能力が必要である。こうした点を踏まえて検討を行った。

1) 平易な用語に置き換えても現場に混乱を来さないと考えられる用語等について

- 難解な用語を平易な用語に置き換える
- 難解な漢字にはふりがなを振る
- 主語・述語・目的語を明示する などの対応策を提示した。

2) 医学・看護専門用語への対応について

- 疾病名への英語の併記
- 国際的に認定されている略語等の英語の併記 などの対応策を提示した。

<参 考>

1. 看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム構成員（別紙 2）

2. 検討経過

- | | | |
|-----------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回（6 月 23 日） | { | <ul style="list-style-type: none"> ●日本語を母国語としない者の日本語習得における困難点 ●インドネシア、フィリピンの看護の状況について |
| 第 2 回（7 月 8 日） | } | <ul style="list-style-type: none"> ●平易な用語に置き換えても現場に混乱を来さないと考えられる用語等への対応について ●医学・看護専門用語への対応について ●ふりがなの取り扱いについて |
| 第 3 回（7 月 15 日） | | |
| 第 4 回（7 月 27 日） | } | <ul style="list-style-type: none"> ●とりまとめ案の検討 ●平易な用語への置き換え例について |
| 第 5 回（8 月 9 日） | | |
| 第 6 回（8 月 24 日） | | <ul style="list-style-type: none"> ●とりまとめ |

「看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム」とりまとめ 概要

1. はじめに

- 経済連携協定（EPA）による看護師候補者への対応に関連して、看護師国家試験における用語を見直すべきではないかと指摘されているところである。一方、看護師国家試験は、看護師として必要な知識及び技能を問うものであり、医療安全の確保のためには国家試験の質保証が求められる。これらを背景に、現場に混乱を来さないことに留意して、一般的な用語等の置き換え及び医学・看護専門用語についての対応策等について検討を行った。

3. 平易な用語に置き換えても医療・看護現場及び看護教育現場に混乱を来さないと考えられる用語への対応

- 看護師国家試験で用いられている一般的な用語（医学・看護専門用語以外の用語）について、医療・看護現場、教育現場に混乱を来さないこと及び医療安全の確保に十分に留意しつつ、以下の方針で見直しを行う。

【対応策1】 難解な用語の平易な用語への置き換え

- 医療・看護現場における慣用的な表現は、平易な用語を使って置き換える。
例) 体重増加をきたしやすい → 体重が増加しやすい
- ただし、医療現場で慣用的な表現として広く定着しているものは置き換えない。
例) 膀胱留置カテーテルを挿入する

【対応策2】 難解な漢字への対応

- 平易な用語に置き換えられない常用漢字以外の用語にはふりがなを振ることを検討する。
例) 脆弱 → 脆弱ぜいじやく

【対応策3】 曖昧な表現の明確な表現への置き換え

- 例) 食事はイスタ外食品ばかりである → 食事はイスタ外食品ばかりを食べている

【対応策4】 固い表現の柔らかい表現への置き換え

- 例) 入院となった → 入院した

【対応策5】 複合語の分解

- 長い複合語で分解しても問題ないものは、間に「てにをは」を入れる。
例) 便秘予防 → 便秘の予防

【対応策6】 主語・述語・目的語の明示

- 日本語として不自然でない範囲で主語、述語、目的語などを明示する。
例) 80歳の女性。自宅で長男と2人暮らし。明け方にトイレに行こうとして廊下でつまずき転倒し、左大腿骨頸部骨折と診断され固定術を受けた。

↓

Aさん(80歳、女性)は、自宅で長男と2人で暮らしている。Aさんは、明け方にトイレに行こうとして廊下でつまずいて転倒し、左大腿骨頸部骨折と診断され固定術を受けた。

【対応策7】 句読点の付け方等の工夫

【対応策8】 否定表現はできる限り肯定表現に転換

【対応策9】 意味が分かりやすくなるよう文構造を変換

- 例) 眼瞼と下腿の浮腫に母親が気づき来院した。

↓

母親がAちゃんの眼瞼と下腿の浮腫に気づき、来院した。

【対応策10】 家族関係の明示

- 問題文の登場人物の続柄が複雑な場合は、家族関係を図示するなど工夫する。

2. 経済連携協定による外国人看護師候補者の日本語習得等の状況と課題

- 看護師国家試験問題に解答するためには、看護師として現場で働く際に求められる日本語の読み書き能力より高度な日本語の読解能力が必要とされている。
- 一方、医療現場では患者・家族及び医療関係者とのコミュニケーションを適切に行うことや、医学・看護専門用語を正確に理解し、薬剤等を確実に照合することが不可欠である。医療安全の観点からも、相応の日本語の読み書き能力が必要である。看護師国家試験においてはこのような能力を有しているか否かについても問うことができるよう問題を作成する必要がある。

4. 医学・看護専門用語への対応

1) 対応方針

- 専門用語は学問の体系を反映するものであり、一つ一つに厳密な定義がある。医学・看護専門用語についても、用語として定着させるまでの学問的、体系的な積み上げと長い歴史とがある。これを平易な日常語で表現すると、学問の体系が崩れたり、意味が不正確になったりすることがあり、現場に混乱を来す。したがって、医学・看護専門用語の置き換えは行わない。しかし、看護師候補者の負担を軽減するための対応策として、以下の方針に沿って対応する。

【対応策11】 疾病名への英語の併記

- 医学・看護専門用語のうち、医療現場において診療録では疾病名が英語で記載されることが多い。チームで医療を行う上で看護師も英語で記載された診療録の疾病名を理解することは重要であり、看護師国家試験の試験問題において疾病名に英語を併記することは適当である。

例) 糖尿病 → 糖尿病
diabetes mellitus

白内障 → 白内障
cataract

【対応策12】 国際的に認定されている略語等の英語の併記

- 国際的に認定されている略語等があるものは、その用語に続けて併記する。
例) 日常生活動作 → 日常生活動作 (ADL)

【対応策13】 外国人名への原語の併記

例) エリクソン → エリクソン, E. H.
Erikson, E.H.

【対応策14】 専門用語の置き換え等は文脈によって判断する

2) 留意点

- ただし、薬剤名は医療・看護現場で英語が用いられることは少なく、日本薬局方での用語と英語表記が必ずしも一致しないこと、症状等を表す用語は日本語で理解できないと容態の異常の発見が遅れる可能性があることなど、医療安全上の観点から、これらの用語への英語併記は行わない。
- 処置（手術を含む）、検査、検査値、身体部位に関する用語等については、英語や国際的に認定された略語を併記すべきか否かの明確な基準を一律に示すことは困難であり、試験委員会において医学・看護学等の専門家による個別の判断が必要である。

5. おわりに

- 看護師は、医療関係者と患者・家族とで構成されるチーム医療の一員として、高い専門性を有することが求められる。そのような能力を適正に評価し得る看護師国家試験の課題について、医療安全の確保に十分に留意しつつ、現時点で可能な検討を行った。
- このとりまとめは、対応策の基本的な考え方と少数の事例を示したものに過ぎず、試験委員会において、これを目安として個々の問題文や用語に即した個別の専門的な判断が行われることが期待される。

看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム

構成員

(○ 座長)

栗本 澄子 愛知県立総合看護専門学校教務課長

澤 充 日本大学医学部附属板橋病院院長

高岸 壽美 和歌山赤十字看護専門学校副学校長

竹下 夏美 京都橘大学看護学部准教授

田中 牧郎 人間文化研究機構国立国語研究所
言語資源研究系准教授

○ 中山 洋子 福島県立医科大学看護学部教授

西口 光一 大阪大学国際教育交流センター教授

平野 裕子 九州大学大学院医学研究院保健学部門准教授

林正 健二 山梨県立大学看護学部教授

看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム とりまとめ

1. はじめに

- 経済連携協定（EPA）による看護師候補者への対応に関連して、「規制・制度改革に係る対処方針」（平成22年6月18日 閣議決定）においては、規制改革事項として「EPAに基づく看護師、介護福祉士候補者への配慮」が挙げられ、以下の対処方針が決定された。
「看護師国家試験及び介護福祉士試験において使用されている難解な用語の取扱いについて、平易な日本語に置き換えても現場に混乱を来さないものについて用語の置き換えや漢字へのルビ記載ができないかなど、試験委員会において検討を行い、試験問題作成に反映。〈平成22年度中措置〉」
- また、「『東アジア共同体』構想に関する今後の取組について」（平成22年6月1日 政府とりまとめ）及び「新成長戦略について」（平成22年6月18日 閣議決定）においても、看護師国家試験のあり方に関する検討あるいはあり方の見直しを行うこととされており、こうした方針に基づいて適切な対応が求められている。
- 一方、看護師国家試験は、看護師として必要な知識及び技能について行うこととされており（保健師助産師看護師法第17条）、試験問題で用いられる用語は、医療・看護現場で働く看護師に必要な知識・技能に該当するか否か、看護師学校養成所で教育されているか否か、及び国家試験出題基準に準拠するものであるか否か等の観点から試験委員会において吟味されている。すなわち、看護師国家試験で用いられる用語は、医療・看護現場及び看護教育現場の双方に密接に関係している。
- 看護師国家試験は、毎年約5万人が受験しており、国家試験合格者には看護師籍への登録を経て看護師免許証が交付される。従って、適切な医療・看護の実践と医療安全の確保のため、国家試験の質を保証することが求められている。
- こうしたことを背景に、平成22年6月23日に有識者による検討チームが開催され、8月24日までの間に6回の会議を開催して検討を行い、現場に混乱を来さないことに留意して、一般的な用語の置き換え等及び医学・看護専門用語についての対応策について検討を行った。

2. 経済連携協定による外国人看護師候補者の日本語習得等の状況と課題

- 経済連携協定による外国人看護師候補者の場合、受入病院における就労研修に入る前の6か月間に、まず、①話し言葉・書き言葉に関する基礎的な日本語教育が行われ、次に、②医療・看護現場でのオーラルコミュニケーション（話し言葉）の教育と、③看護で使用される専門用語、準専門用語の読み書きの教育が同時に行われる。就労研修中も②及び③の教育は継続されている。しかしながら、従来の看護師国家試験の試験問題に解答するためには、看護師として現場で働く際に求められる日本語の読み書き能力に比べ、より高度な日本語読解能力が必要とされている。
- 一方、看護師として現場で働くためには、患者・家族及び医療関係者とのコミュニケーションを適切に行うことや薬剤の確実な照合等が、安全で適切な医療を行う上で不可欠である。そのため、医学・看護専門用語についての正確な理解力や、日本語による対応

の読み書き能力が必須である。看護師国家試験においては、このような能力を有しているか否かについても問うことができるよう問題を作成する必要がある。

3. 平易な日本語に置き換えても医療・看護現場及び看護教育現場に混乱を来さないと考えられる用語等への対応

1) 対応方針

- 看護師国家試験で用いられている一般的な用語（医学・看護専門用語以外の用語）について、外国人看護師候補者が日本語を習得する際の特徴や困難な点を踏まえ、過去数年の看護師国家試験問題を全体的に見直し、医療・看護現場、教育現場に混乱を来さないこと及び医療安全の確保に十分に留意しつつ、また医療・看護現場における用語の使われ方を適切に反映した形で、平易な用語や表現への置き換えができないかについて検討を行った。
- 検討の結果、以下の対応方針で見直しを行うこととする。

【対応策1】 難解な用語の平易な用語への置き換え

- 医療・看護現場における慣用的な表現は、平易な用語に置き換えることにより、分かりやすくなると考えられる。
例) 体重増加をきたしやすい → 体重が増加しやすい
症状を呈する → 症状が現れる 又は 症状がある (文脈によって判断する)
- ただし、医療・看護現場で慣用的な表現として広く定着し、話し言葉としても多用されているものについては、置き換えるとかえって理解できなくなる可能性があることから、置き換えは行わない。
例) 膀胱留置カテーテルを挿入する
全身状態は良好である
転倒する

【対応策2】 難解な漢字への対応

- 難解な用語については、上述のように平易な用語への置き換えを可能な限り行うことが適当であるが、平易な用語に置き換えることができない用語であり、かつ常用漢字以外の漢字が使われている用語については、ふりがなを振ることを検討する。
例) 脆弱 → 脆弱ぜいじやく
惣菜 → 惣菜そっさい

【対応策3】 曖昧な表現の明確な表現への置き換え

- 例) 入院による抜歯となる → 入院して抜歯する
食事はインスタント食品ばかりである
→ 食事はインスタント食品ばかりを食べている

【対応策4】 固い表現の柔らかい表現への置き換え

- 例) 入院となった → 入院した
手すりを設置する → 手すりを付ける

【対応策5】 複合語の分解

- 長い複合語で分解しても問題ないものは、間に「てにをは」を入れることによって、分かりやすくなると考えられる。
例) 便秘予防 → 便秘の予防
自宅退院 → 自宅への退院

【対応策6】 主語・述語・目的語の明示

- 主語、述語、目的語などが省略されている文は、日本語として不自然でない範囲で主語、述語、目的語などを明示することで、問題文が分かりやすくなると考えられる。

例) 80歳の女性。自宅で長男と2人暮らし。明け方にトイレに行こうとして廊下でつまずき転倒し、左大腿骨頸部骨折と診断され固定術を受けた。

↓

Aさん(80歳、女性)は、自宅で長男と2人で暮らしている。Aさんは、明け方にトイレに行こうとして廊下でつまずいて転倒し、左大腿骨頸部骨折と診断され固定術を受けた。

58歳の男性。コンピュータプログラマー。3か月前から右下肢に歩行時の疼痛があり、右下肢閉塞性動脈硬化症と診断され、経皮的血管形成術の目的で入院した。

↓

58歳の男性Aさんは、コンピュータプログラマーである。3か月前から右下肢に歩行時の疼痛があり、右下肢閉塞性動脈硬化症と診断され、経皮的血管形成術の目的で入院した。

【対応策7】 句読点の付け方等の工夫

- 句読点の付け方や助詞の使い方によって、文意を理解しやすくすることができる。
- 長い文章は適宜区切り、複数の文章にする。
- 従属節後に句読点を付ける。
例) Aさんは順調に経過したので、退院した。
嘔気が強いため、制吐薬を服用した。

【対応策8】 否定表現はできる限り肯定表現に転換

- 否定表現は、重なると文意がとりにくくなるため、できる限り肯定表現にすることが望まれる。

【対応策9】意味が分かりやすくなるよう文構造を変換

例) 眼瞼と下腿の浮腫に母親が気づき来院した。



母親がAちゃんの眼瞼と下腿の浮腫に気づき、来院した。

【対応策10】家族関係の明示

- 問題文の登場人物の続柄が複雑な場合は、家族関係を図示するなどの工夫が求められる。

2) 用語の置き換えの具体的手順と留意点

- 問題文の難解な用語・表現を平易な用語に置き換える方法として、問題文を「ですます体」で用いられるような用語・表現にすることは一つの方法である。これを試みることにより、置き換えるべき用語等を一語ずつ吟味することになり、分かりやすい表現になるだけでなく、その問題の出題の主旨等が洗練され、問題の質も向上する。
- 問題文を「ですます体」にすることにより、このような効果が期待できるが、国家試験では限られた時間内で問題を解く必要があり、問題文を読む時間をできる限り短くすることも重要である。そのため、「ですます体」に変換した後に、再度「である体」にし、問題文として読みやすくすることが適当である。
- 一方、問題文の中では置き換え可能な用語であっても、選択肢としては置き換えが難しい用語もあり、それらは文脈から判断する必要があるため、一律に置き換えの可否を定めることは困難である。
- なお、当検討チームでは、平易な用語に置き換えるべき用語を選定する際、日本語能力試験の1級を超える用語を目安として検討した。日本語能力試験出題基準は、外国人に対する日本語教育の基準として広く普及しており、日本語能力試験出題基準の語彙リストは1級までで約1万語ある。(参考：日本人への国語教育の語彙リストとしては、小学生までに約1万語、中学生までに約2万語が示されている。)ただし、前述したように、置き換えの可否を一律に決めることは難しく、個々の問題文や用語に即した個別の判断が不可欠である。

4. 医学・看護専門用語への対応

1) 対応方針

- 専門用語は学問の体系を反映するものであり、一つ一つに厳密な定義がある。医学・看護専門用語についても、用語として定着させるまでの学問的、体系的な積み上げと長い歴史とがある。これを平易な用語で表現すると、学問の体系が崩れたり、意味が不正確になったりすることがあり、現場に混乱を来す。したがって、看護師国家試験の試験問題において医学・看護専門用語の置き換えは行わないこととするが、外国人看護師候補者における負担を軽減するための対応策として、以下の方針に沿って対応する。

【対応策1 1】 疾病名への英語の併記

- 外国人看護師候補者のうち、インドネシアでは看護教育は一般的にインドネシア語で行われているが、看護教育のテキストでは疾病名、器官名等は英語で表記されており、英語でも学んでいることが報告されている。また、フィリピンの看護教育は英語で行われている。こうしたことから、医学・看護専門用語に英語を併記することは外国人看護師候補者の読解を助けるものと考えられる。
- また、看護師国家試験で使われる医学・看護専門用語に英語を併記することは、グローバル化が進む現在、我が国の看護にも意義があると考えられる。
- 医学・看護専門用語のうち、医療・看護現場において診療録では疾病名が英語で記載されることも多い。チームで医療を行う上で看護師も英語で記載された診療録の疾病名を理解することは重要であり、看護師国家試験の試験問題において疾病名に英語を併記することは適当である。

例) 糖尿病 → 糖尿病
diabetes mellitus
白内障 → 白内障
cataract

【対応策1 2】 国際的に認定されている略語等の英語の併記

- 医学・看護専門用語で、国際的に認定されている略語等があるものは、その用語に続けて括弧書きで併記する。
例) 経皮的動脈血酸素飽和度 → 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂)
日常生活動作 → 日常生活動作 (ADL)

【対応策1 3】 外国人名への原語の併記

例) エリクソン → エリクソン, E. H.
Erikson, E.H.

【対応策1 4】 専門用語の置き換え等は文脈によって判断する

- 用語よりも内容を問う問題文や状況説明文などでは、必ずしも専門用語によって厳密に表現する必要がない場合もある。そうした場合は、専門用語を使わずに平易な用語で表現することで、文章を分かりやすくする配慮が望まれる。

例) 家族から訪問看護師に「いつもより夜間の尿量が少なく、お腹が張っている感じがする」と連絡があった。
↑
腹部の膨満感がある

「体がだるく、赤ちゃんの世話が思うようにできません」と言う。
↑
倦怠感がある

2) 留意点

- 薬剤名（一般名）については、医療・看護現場では英語が用いられることは少ないこと、日本薬局方での用語と英語表記が必ずしも一致しないこと、また、薬剤名を日本語で理解できないと医療安全上、重大な問題が発生する危険があり、看護師国家試験の試験問題では英語の併記を行うべきでない。
- また、症状等を表す用語を日本語で理解しておかないと、コミュニケーション・エラーが生じたり、患者の異常の発見が遅れるなど、極めて重大な影響を及ぼす可能性があることから、英語の併記は行わない。
- この他の医学・看護専門用語のうち、処置（手術を含む）、検査、検査値、身体部位に関する用語等については、英語や国際的に認定された略語を併記すべきか否かの明確な基準を一律に示すことは困難であり、看護用語辞典や看護実践用語標準マスター等に収載されているか否かなどを目安としつつ、試験委員会において医学・看護学等の専門家による個別の判断が必要である。

5. おわりに

- 看護師は、医療関係者と患者・家族とで構成されるチーム医療の一員として、高い専門性を有することが求められる。そのような能力を適正に評価し得る看護師国家試験の課題について、医療安全の確保に十分に留意しつつ、現時点で可能な検討を行った。検討成果は上記の対応策で示したとおりであるが、過去の看護師国家試験の問題文を用いて、各対応策により用語の置き換え等を行った具体例を別紙に示した。
- 用語を平易にすることは、例えば、患者への説明を行う観点から病院の言葉を分かりやすくすることの医療界での議論、また裁判員制度の導入を契機に難解な法律用語の置き換えに関する法曹界の動向等、近年の社会の潮流である。このような中で、看護師国家試験で用いられる用語について難解な用語を見直すことは合理性があるものと考えられる。
- このとりまとめは、対応策の基本的な考え方と少数の事例を示したものに過ぎない。試験委員会において、これを目安として個々の問題文や用語に即した個別の専門的な判断が行われることが期待される。

看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム

構成員

(敬称略、五十音順)

(○ 座長)

栗本 澄子 愛知県立総合看護専門学校教務課長

澤 充 日本大学医学部付属板橋病院院長

高岸 壽美 和歌山赤十字看護専門学校副学校長

竹下 夏美 京都橘大学看護学部准教授

田中 牧郎 人間文化研究機構国立国語研究所
言語資源研究系准教授

○ 中山 洋子 福島県立医科大学看護学部教授

西口 光一 大阪大学国際教育交流センター教授

平野 裕子 九州大学大学院医学研究院保健学部門准教授

林正 健二 山梨県立大学看護学部教授

<別紙>

看護師国家試験過去問題の用語の置き換え例

この置き換え例は、とりまとめにおける対応策の適用例を具体的に示すために、検討チームで作成したものである。実際に出題する問題は、試験委員会において、対応策を目安として、個々の用語や問題文に即した個別の専門的な判断が行われるものである。

【用語の置き換え等の対応策一覧】

平易な日本語に置き換えても医療・看護現場及び看護教育現場に混乱を来さないと考えられる用語等への対応	対応策①	難解な用語の平易な用語への置き換え
	対応策②	難解な漢字への対応（ふりがな）
	対応策③	曖昧な表現の明確な表現への置き換え
	対応策④	固い表現の柔らかい表現への置き換え
	対応策⑤	複合語の分解
	対応策⑥	主語・述語・目的語の明示
	対応策⑦	句読点の付け方等の工夫
	対応策⑧	否定表現はできる限り肯定表現に転換
	対応策⑨	意味が分かりやすくなるよう文構造を変換
	対応策⑩	家族関係の明示
医学・看護専門用語への対応	対応策⑪	疾病名への英語の併記
	対応策⑫	国際的に認定されている略語等の英語の併記
	対応策⑬	外国人名への原語の併記
	対応策⑭	専門用語の置き換え等は文脈によって判断する

〈一般問題〉

第98回午後 問69

エリクソンによる幼児前期の発達課題はどれか。

1. 基本的信頼
2. 自律性
3. 勤勉性
4. 親密性

【見直し後】

エリクソン、E. H. による幼児前期の発達課題はどれか。

Erikson, E.H.

1. 基本的信頼
2. 自律性
3. 勤勉性
4. 親密性

【適用した対策】

【Erikson, E.H.】⑬

〈状況設定問題〉

第98回午前 問112～114

次の文を読み【112】～【114】の問いに答えよ。

4歳の男児。3、4日前から活気がなく、眼瞼と下腿の浮腫に母親が気づき来院した。血液検査の結果、総蛋白3.7g/dl、アルブミン2.1g/dl、総コレステロール365mg/dl、尿蛋白3.5g/日で、ネフローゼ症候群と診断され入院した。入院時、体重18.0kg。尿量300ml/日、尿窒素12mg/dl。

【見直し後】

次の文を読み【112】～【114】の問いに答えよ。

Aちゃん(4歳、男児)は、3、4日前から活気がなかった。母親がAちゃんの眼瞼と下腿に浮腫があることに気づき、来院した。Aちゃんの血液検査の結果は、総蛋白3.7g/dl、アルブミン2.1g/dl、総コレステロール365mg/dl、尿蛋白3.5g/日で、ネフローゼ症候群と診断され、入院した。入院時のAちゃんの状況は、体重18.0kg、尿量300ml/日、尿窒素12mg/dlであった。

【112】入院時の食事で制限するのはどれか。

1. 塩分
2. 糖質
3. 脂質
4. 蛋白質

【見直し後】

【112】入院時のAちゃんへの食事で制限するのはどれか。

1. 塩分
2. 糖質
3. 脂質
4. 蛋白質

【適用した対策】

【Aちゃんへは、】⑥、⑦
 【なかった。】⑦
 【母親が】⑨
 【Aちゃんの】⑥
 【眼瞼と～があることに】③
 【、】⑦
 【Aちゃんの血液検査の結果は】③、⑥
 【nephrotic syndrome】⑪
 【、】⑦
 【入院時のAちゃんの状況は】③
 【、】⑦
 【であった。】⑥

【適用した対策】

【Aちゃんへの】⑥

【113】入院6時間が経過した。排尿がみられないため下腹部超音波検査を実施したところ、膀胱内に尿はほとんど認められない。

この時点で注意すべき徴候はどれか。

- 1.徐脈
- 2.不穏状態
- 3.顔面紅潮
- 4.血圧上昇

【見直し後】

【113】入院して6時間が経過した。Aちゃんに排尿がみられないため、下腹部超音波検査を実施したところ、膀胱内に尿はほとんど認められない。

この時点で注意すべき徴候はどれか。

- 1.徐脈
- 2.不穏状態
- 3.顔面紅潮
- 4.血圧上昇

【適用した対策】

【入院して】③
【Aちゃんに】⑥
【、】⑦

【114】男児は蛋白尿（－）となり、その後の経過は順調でプレドニゾロン 15mg/日の退院時処方を受け、退院することとなった。

退院に向けた説明で適切なものはどれか。

- 1.内服中は再発しない。
- 2.人ごみにはいかない。
- 3.運動をしてはいけない。
- 4.予防接種の制限はない。

【見直し後】

【114】Aちゃんは蛋白尿（－）となり、その後の経過は順調であったため、プレドニゾロン 15mg/日の退院時処方を受け、退院することになった。

退院に向けたAちゃんの母親への説明で適切なものはどれか。

- 1.内服中は再発しない。
- 2.人が多い場所にはいかない。
- 3.運動をしてはいけない。
- 4.予防接種の制限はない。

【適用した対策】

【Aちゃん】⑥
【であったため、】③
【することになった】④
【Aちゃんの母親への】⑥
【人が多い場所】①

次の文を読み【118】～【120】の問いに答えよ。

19歳の男性。大学生。両親と兄の4人家族。1か月前から自室で独語をしながら片脚跳びをしている。母親に注意されると『これをやめたら人生ゲームに乗り遅れる。やめたらおまえの負けだ』という声が聞こえてくる」と言い、夜間も頻繁に行っていた。母親が早く寝るように言うと、殴りかかろうとしたこともあった。次第に、食事や睡眠がとれなくなり、父親と兄に伴われ精神科病院を受診した。父親と精神保健指定医とに説得され入院の勧めに応じた。

【見直し後】

次の文を読み【118】～【120】の問いに答えよ。

Aさん（19歳、男性）は大学生で、両親と兄の4人家族である。Aさんは、1か月前から自室で独語をしながら片脚跳びをしている。母親に注意されると、Aさんは、『これをやめたら人生ゲームに乗り遅れる。やめたらおまえの負けだ』という声が聞こえてくる」と言い、夜間も頻繁に行っていた。母親が早く寝るように言うと、Aさんは母親に殴りかかろうとしたこともあった。Aさんは、次第に食事や睡眠がとれなくなり、父親と兄に伴われ精神科病院を受診した。父親と精神保健指定医とに説得され入院の勧めに応じた。

【適用した対策】

【Aさん（19歳、～）は】⑥
【大学生で、～である】⑦、⑨
【Aさんは、】⑥、⑦
【、】⑦
【Aさんは、】⑥、⑦
【Aさんは母親に】⑥
【Aさんは】⑥

【118】入院形態はどれか。

- 1.措置入院
- 2.任意入院
- 3.医療保護入院
- 4.緊急措置入院

【見直し後】

【118】入院形態はどれか。

- 1.措置入院
- 2.任意入院
- 3.医療保護入院
- 4.緊急措置入院

【適用した対策】

なし

【119】患者は看護師に「声が聞こえてくると、どうしても片脚跳びをやってしまう」と訴えている。

対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「声が聞こえるのですね。つらいですね」
2. 「誰が何と言っていますか。詳しく教えてください」
3. 「体が心配です。できるだけ休んで下さい」
4. 「片脚跳びをやめても何事も起きないから大丈夫ですよ」
5. 「声が出ていることは間違っていますよ」

【見直し後】

【適用した対策】

【119】Aさんは看護師に「声が聞こえてくると、どうしても片脚跳びをやってしまう」と訴えている。

Aさんへの対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「声が聞こえるのですね。つらいですね」
2. 「誰が何と言っていますか。詳しく教えてください」
3. 「体が心配です。できるだけ休んで下さい」
4. 「片脚跳びをやめても何事も起きないから大丈夫ですよ」
5. 「声が出ていることは間違っていますよ」

【Aさん】⑥

【Aさんへの】⑥

【120】消灯後自室（個室）で片脚跳びを続けている患者に声をかけたところ、突然怒りだし、なだめようとするがゴミ箱を蹴るなどの攻撃性がエスカレートしてきた。

対応で適切なのはどれか。

1. このままだと隔離室に入室することになると伝える。
2. 複数の看護師が病室に向いて話を聞く。
3. 興奮を鎮めるためにタッチングをする。
4. 乱暴な振る舞いをしないよう注意する。

【見直し後】

【適用した対策】

【120】消灯後、自室（個室）で片脚跳びを続けているAさんに声をかけたところ、突然怒りだした。看護師がなだめようとするが、ゴミ箱を蹴るなどの攻撃性が強くなった。

Aさんへの対応で適切なのはどれか。

1. このままだと隔離室に入室することになると伝える。
2. 複数の看護師が病室に向いて話を聞く。
3. 興奮を鎮めるためにタッチングをする。
4. 乱暴な振る舞いをしないよう注意する。

【、】⑦

【Aさんに】⑥

【突然怒りだした。】⑦

【看護師が】⑥

【、】⑦

【蹴る】②

【強くなった】①

【Aさんへの】⑥

次の文を読み【100】～【102】の問いに答えよ。

65歳の女性。身長157cm、体重56kg。長女夫婦と2人の孫と2階家屋一戸建てに住んでいる。本人の部屋は2階にある。長女夫婦が共働きのため、孫の幼稚園の送迎や世話などで毎日忙しく過ごしている。1か月前の市の健康診査で骨密度の検査を受けたところ精査を勧められ、近医で骨粗鬆症と診断され、ビスホスホネート製剤の内服を開始した。

【見直し後】

【適用した対策】

Aさん(65歳、女性)は、長女夫婦と2人の孫と2階家屋の一戸建てに住んでいる。Aさんの部屋は2階にある。長女夫婦が共働きのため、Aさんは孫の幼稚園への送迎や世話などで毎日忙しく過ごしている。1か月前の市の健康診査で骨密度の検査を受けたところ、精密検査を勧められた。精密検査の結果、骨粗鬆症と診断され、ビスホスホネート製剤の内服を開始した。Aさんは、身長157cm、体重56kgである。

【Aさん(65歳、女性)は、】⑥、⑦

【2階家屋の一戸建て】⑤

【Aさんの】【Aさんは】⑥

【送迎】①

【、】⑦

【精密検査】③

【勧められた。】⑦

【精密検査の結果、】①、③

【osteoporosis】⑪

【Aさんは、身長～】⑨

【100】骨粗鬆症のタイプで最も考えられるのはどれか。

1. 特発性
2. 閉経後
3. 廃用性
4. 栄養性

【見直し後】

【適用した対策】

Aさんの骨粗鬆症のタイプで、最も考えられるのはどれか。

1. 特発性
2. 閉経後
3. 廃用性
4. 栄養性

【Aさんの】⑥

【、】⑦

【101】転倒予防のための環境調整で優先度が高いのはどれか。

1. 玄関の段差にスロープをつける。
2. 廊下の中央に厚いじゅうたんを敷く。
3. トイレと風呂場に手すりを設置する。
4. 階段と廊下に夜間の足元照明を設置する。

【見直し後】

転倒を予防するための環境調整で優先度が高いのはどれか。

1. 玄関の段差にスロープをつける。
2. 廊下の中央に厚いじゅうたんを敷く。
3. トイレと風呂場に手すりをつける。
4. 階段と廊下に夜間用の足元照明器具をつける。

【適用した対策】

- 【転倒を予防する】⑤
- 【つける】①
- 【夜間用の】③
- 【照明器具をつける】③

【102】骨折リスクを低減するための生活指導で適切なのはどれか。

1. 幼稚園の送迎を控える。
2. 服薬を確実に継続する。
3. 毎日の縄跳びを始める。
4. 体幹の回旋運動を積極的に行う。
5. ビタミン A を多く含む食品を積極的に摂取する。

【見直し後】

A さんの骨折のリスクを下げるための生活指導で適切なのはどれか。

1. 幼稚園への送り迎えを控える。
2. 服薬を確実に継続する。
3. 毎日の縄跳びを始める。
4. 体幹の回旋運動を積極的に行う。
5. ビタミン A を多く含む食品を積極的に摂取する。

【適用した対策】

- 【A さんの】⑥
- 【骨折のリスク】⑤
- 【下げる】①
- 【送り迎え】①

次の文を読み【109】～【111】の問いに答えよ。

30 歳の初産婦。昨日 20 時に正常分娩した。今朝の観察では、体温 37.1℃、脈拍 72/分、血圧 118/76mmHg。乳房緊満感(-)、乳管開口左右 4、5 本。子宮底臍高、子宮は硬く触れ、血性悪露中等量、後陣痛がみられる。会陰裂傷の縫合部痛があるが発赤はない。「昨夜は興奮してなかなか眠れなかった」と言う。

【見直し後】

A さん (30 歳、初産婦) は、昨日 20 時に正常分娩した。今朝の観察では、体温 37.1℃、脈拍 72/分、血圧 118/76mmHg で、乳房緊満感(-)、乳管開口は左右 4、5 本である。子宮底の位置は臍高で、子宮は硬く触れ、血性悪露が中等量ある。後陣痛がある。会陰裂傷の縫合部痛があるが発赤はない。A さんは「昨夜は興奮して、なかなか眠れなかった」と言う。

【適用した対策】

- 【A さん (30 歳、～) は、】⑥、⑦
- 【乳管開口は】⑥
- 【～である。】⑥
- 【子宮底の位置は臍高】③
- 【血性悪露が中等量ある。】⑤、⑥
- 【後陣痛がある】①
- 【A さんは】⑥
- 【、】⑦

【109】健康状態のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 子宮復古は順調である。
2. 創部感染徴候がみられる。
3. 分娩の受け止めに問題がある。
4. 産褥日数に比べて進行性変化が遅い。

【見直し後】

【109】A さんの健康状態のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 子宮復古は順調である。
2. 創部に感染徴候がみられる。
3. 分娩の受け止めに問題がある。
4. 産褥日数に比べて進行性変化が遅い。

【適用した対策】

- 【A さんの】⑥
- 【創部に】⑤

第 99 回午前 問 91～93

【110】産褥 2 日。母子同室を開始した。児が欲しがる様子を見せると授乳するが、うまく吸ってくれず児の口がすぐに乳頭からはずれてしまうという。乳房緊満はみられず、乳房の形態はⅡa 型、乳頭の形は正常である。優先して確認すべきことはどれか。

- 1.授乳回数
- 2.児の抱き方
- 3.乳汁分泌状態
- 4.乳頭の傷の有無

【見直し後】

【110】産褥 2 日目。A さんは母子同室を開始した。A さんは児が乳を欲しがる様子を見せると授乳するが、うまく吸ってくれず、児の口がすぐに乳頭からはずれてしまうという。A さんに乳房緊満はみられず、乳房の形態はⅡa 型、乳頭の形は正常である。看護師が優先して確認すべきことはどれか。

- 1.授乳の回数
- 2.児の抱き方
- 3.乳汁分泌の状態
- 4.乳頭の傷の有無

【適用した対策】

- 【2 日目】③
- 【A さんは】⑥
- 【A さんは】⑥
- 【乳を】⑥
- 【、】⑦
- 【A さんに】⑥
- 【看護師が】⑥
- 【授乳の回数】⑤
- 【乳汁分泌の状態】⑤

【111】産褥 3 日。分娩後排便が見られない。褥婦は「お腹が張った感じがするが授乳や子どもの世話が忙しくて、ゆっくりトイレに行けない」と言う。対応で適切なのはどれか。

- 1.安静臥床を勧める。
- 2.母子同室を中止する。
- 3.腹部マッサージを勧める
- 4.食事摂取量を減らすよう勧める。

【見直し後】

【111】産褥 3 日目。A さんは分娩後、排便がなく、「お腹が張った感じがするが授乳や子どもの世話が忙しくて、ゆっくりトイレに行けない」と言う。対応で適切なのはどれか。

- 1.安静臥床を勧める。
- 2.母子同室を中止する。
- 3.腹部マッサージを勧める
- 4.食事の摂取量を減らすよう勧める。

【適用した対策】

- 【3 日目】③
- 【A さんは】⑥
- 【、】⑦
- 【なく、】①、⑦
- 【食事の摂取量】⑤

次の文を読み【91】～【93】の問いに答えよ。

39 歳の女性。専業主婦。会社員である夫と 16 歳の長男との 3 人暮らし。子宮頸癌(ステージⅣ)で化学療法を繰り返してきたが、効果がなく疼痛コントロール目的で入院となった。本人は治療しないなら家に帰ることを強く希望している。臥床している時間が多いが、排泄時はベッドサイドのポータブルトイレを自力で利用可能である。

【見直し後】

A さん (39 歳、女性、専業主婦) は、会社員である夫と 16 歳の長男との 3 人で暮らしている。子宮頸癌(ステージⅣ)で化学療法を繰り返してきたが、効果がなく、疼痛をコントロールする目的で入院した。A さんは、治療しないなら家に帰ることを強く希望している。臥床している時間が多いが、排泄はベッドサイドのポータブルトイレを使って自分で行うことができる。

【適用した対策】

- 【A さん (39 歳、～) は、】⑥、⑦
- 【3 人で暮らしている。】⑦
- 【cervical cancer (stageⅣ)】⑪
- 【、】⑦
- 【疼痛をコントロールする目的】⑤
- 【入院した】④
- 【A さんは、】⑥
- 【排泄は ～自分でできる。】①

【91】病院から訪問看護ステーションに訪問の依頼があり、夫と面接することになった。夫は「私が介護をするので、家に帰るといふ本人の希望をかなえたい」と相談した。夫に確認する情報で優先度が高いのはどれか。

- 1.家族の介護力
- 2.化学療法の内容
- 3.介護保険申請の有無
- 4.かかりつけ医の有無

【見直し後】

病院から訪問看護ステーションに訪問の依頼があり、訪問看護師が A さんの夫と面接することになった。A さんの夫は「私が介護をするので、家に帰りたいという妻の希望をかなえたい」と相談した。

- A さんの夫に確認する情報で優先度が高いのはどれか。
- 1.家族の介護力
 - 2.化学療法の内容
 - 3.介護保険申請の有無
 - 4.かかりつけ医の有無

【適用した対策】

- 【訪問看護師が】⑥
- 【A さんの夫】⑥
- 【A さんの夫は】⑥
- 【家に帰りたい】③
- 【妻の】⑥
- 【A さんの夫に】⑥

【92】1週後、在宅療養を開始した。在宅療養支援診療所の医師が週1回、訪問看護師は日曜日以外毎日訪問することになった。下腹部痛と膨満感に対して、フェンタニル貼付剤と臨時追加投薬の速効性オキシコドン塩酸塩水和物の内服で病状は安定している。

訪問看護師の対応で適切なものはどれか。

- 1.患者の主観的な訴えを尊重する。
- 2.フェンタニル貼付剤の交換は訪問看護師が行う。
- 3.痛みの評価は直接主治医に伝えるよう説明する。
- 4.臨時追加薬はなるべく使わず我慢するよう説明する。

【見直し後】

【92】1週間後、Aさんは在宅療養を始めた。在宅療養支援診療所の医師が週に1回、訪問看護師は日曜日以外毎日訪問することになった。下腹部痛と膨満感に対して、フェンタニル貼付剤と臨時追加薬の速効性オキシコドン塩酸塩水和物を内服することで病状は安定している。

訪問看護師の対応で適切なものはどれか。

- 1.Aさんの主観的な訴えを尊重する。
- 2.フェンタニル貼付剤の交換は訪問看護師が行う。
- 3.痛みの評価は主治医に直接伝えるよう説明する。
- 4.臨時追加薬はなるべく使わず我慢するよう説明する。

【適用した対策】

- 【1週間後】③
- 【Aさんは】⑥
- 【始めた】①
- 【週に1回】⑤
- 【、】⑦
- 【ことになった】④
- 【～を内服することで】③
- 【Aさんの】⑥
- 【主治医に直接】⑨

【93】終末期が近づき医師から家族に病状が説明された。夫から「家で看取ってあげたいが、今後どうしたらいいかわからない」と相談があった。

夫への対応で適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1.臨死期は救急車を呼ぶよう説明する。
- 2.長男への病状の説明は控えるよう話す。
- 3.家族にできるケアを行っていくことを勧める。
- 4.妻と死について話すのは控えるように伝える。
- 5.死に至るまでの予想される妻の様子を夫に伝えておく。

【見直し後】

【93】終末期が近づき医師がAさんの家族に病状の説明をした。Aさんの夫から「家で看取ってあげたいが、今後どうしたらいいかわからない」と相談があった。

Aさんの夫への対応で適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1.臨死期は救急車を呼ぶよう説明する。
- 2.長男へのAさんの病状の説明は控えるよう話す。
- 3.家族にできるケアを行っていくことを勧める。
- 4.妻と死について話すのは控えるように伝える。
- 5.死に至るまでの予想される妻の様子を夫に伝えておく。

【適用した対策】

- 【医師が】⑥
- 【Aさんの家族に】⑥
- 【～病状の説明をした】①
- 【Aさんの夫】⑩
- 【Aさんの】⑥

第99回午後 問94～96

42歳の男性。会社員。2年前から単身赴任で働いている。朝食は食べず、昼食は社員食堂、夕食は惣菜や弁当を購入し自宅で食べている。週に1度は同僚と外食する。自宅での夕食時には焼酎をロックで2、3杯、就寝前にはウイスキーをロックで2杯程度飲む習慣がある。

【見直し後】

【適用した対策】

Aさん(42歳、男性、会社員)は、2年前から単身赴任で働いている。朝食は食べず、昼食は社員食堂で食べ、夕食は惣菜や弁当を買って自宅で食べている。週に1度は同僚と外食する。自宅での夕食時には焼酎をロックで2、3杯、就寝前にはウイスキーをロックで2杯程度飲む習慣がある。

【Aさん(42歳～)は、】⑥、⑦
【で食べ、】⑥⑦

【惣菜】②

【買って】①

【94】同僚と飲食した翌朝、腹痛と嘔気とで目が覚めた。通常の日酔いとは異なる強い心窩部痛があったため受診した。意識は清明で呼吸困難はない。急性膵炎と診断され入院することになった。

高値が予測される血液検査データはどれか。

- 1.カルシウム
- 2.アルブミン
- 3.アミラーゼ
- 4.α-フェトプロテイン

【見直し後】

【適用した対策】

【94】同僚と飲食した翌朝、Aさんは腹痛と嘔気とで目が覚めた。通常の日酔いとは異なる強い心窩部痛があったため受診した。Aさんの意識は清明で呼吸困難はない。

急性膵炎と診断され入院することになった。

acute pancreatitis

Aさんの血液検査データで、高値が予測されるのはどれか。

- 1.カルシウム <Ca>
- 2.アルブミン <ALB>
- 3.アミラーゼ <AM>
- 4.α-フェトプロテイン <AFP>

【Aさんは】⑥

【Aさんの】⑥

【acute pancreatitis】⑪

【ことになった】④

【Aさんの】⑥

【血液検査データで～どれか】⑨

【<Ca>】⑫

【<ALB>】⑫

【<AM>】⑫

【<AFP>】⑫

【95】入院時の看護で適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1.温巻法の実施
- 2.水分出納の把握
- 3.腸蠕動音の聴診
- 4.仰臥位安静の保持
- 5.モルヒネによる鎮痛効果の観察

【見直し後】

【95】Aさんの入院時の看護で適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1.温巻法の実施
- 2.水分出納の把握
- 3.腸蠕動音の聴診
- 4.仰臥位での安静の保持
- 5.モルヒネによる鎮痛効果の観察

【適用した対策】

- 【Aさんの】⑥
【仰臥位での安静】⑤

【96】入院後10日、順調に回復し、薬物療法として蛋白分解酵素阻害薬が内服処方され退院することとなった。

退院後の生活指導で適切なのはどれか。

- 1.低脂肪食とする。
- 2.低蛋白食とする。
- 3.体調によって服薬調整をする。
- 4.週に1度は飲酒をしない日を設ける。

【見直し後】

【96】入院後10日目、Aさんは順調に回復し、薬物療法として内服の蛋白分解酵素阻害薬が処方され退院することになった。

Aさんへの退院後の生活指導で適切なのはどれか。

- 1.低脂肪食にする。
- 2.低蛋白食にする。
- 3.体調によって服薬を調整する。
- 4.週に1度は飲酒をしない日をつくる。

【適用した対策】

- 【10日目】③
【Aさんは】⑥
【内服の～が処方され】⑨
【ことになった】④
【Aさんへの】⑥
【～にする】④
【～にする】④
【服薬を調整する】⑤
【つくる】①

第99回午後 問97～99

次の文を読み【97】～【99】の問いに答えよ。

36歳の男性。妻と2歳の娘との3人暮らし。急性骨髄性白血病の診断で、中心静脈カテーテルが挿入され、寛解導入療法が開始された。妻は入院時に「娘が自分のそばを離れたがらず、夫の付き添いができない」と話した。

【見直し後】

次の文を読み【97】～【99】の問いに答えよ。

Aさん(36歳、男性)は、妻と2歳の娘との3人暮らしである。Aさんは急性骨髄性白血病と診断され、
acute myelocytic leukemia
中心静脈カテーテルを挿入後、寛解導入療法が開始された。Aさんの妻は、入院時に、「娘が自分のそばを離れたがらず、夫の付き添いができない」と話した。

【適用した対策】

- 【Aさん～は、】⑥、⑦
【である】⑥
【Aさんは】
【acute myelocytic leukemia】⑪
【～を挿入後】⑨
【Aさんの】⑩
【、】⑦
【、】⑦

【97】化学療法開始後10日。白血球 $500/\mu\text{l}$ 、血小板 $30,000/\mu\text{l}$ 。悪心が続き食事摂取がほとんどできず、高カロリー輸液が開始された。妻は「病気に負けてしまう」と涙ぐみ、患者は「妻は子どものことで大変なので、私は早く退院できるようにしないと」と食事摂取に意欲を示している。

この時期の食事の選択で適切なのはどれか。

- 1.妻、子どもと一緒に病院のレストランでの食事
- 2.栄養補助飲料を凍らせたシャーベット
- 3.冷やしたイチゴ
- 4.経管栄養

【見直し後】

【97】化学療法を開始して10日目のAさんの検査結果は白血球 $500/\mu\text{l}$ 、血小板 $30,000/\mu\text{l}$ である。Aさんは悪心が続き食事がほとんど食べられず、高カロリー輸液が開始された。Aさんの妻は「病気に負けてしまう」と涙ぐみ、Aさんは、「妻は子どものことで大変なので、私は早く退院できるようにしないと」と食べることに意欲を示している。

この時期の食事の選択で適切なのはどれか。

- 1.妻、子どもと一緒に病院のレストランでの食事
- 2.栄養補助飲料を凍らせたシャーベット
- 3.冷やしたイチゴ
- 4.経管栄養

【適用した対策】

- 【化学療法を～】③、⑤
【10日目】③
【Aさんの検査結果は】⑥
【Aさんは】⑥
【食事がほとんど食べられず】①
【Aさんの】⑩
【Aさんは、】⑥、⑦
【食べることに】①

【98】3 歳年上の兄とヒト白血球抗原<HLA>が適合したため、血縁者間骨髄移植が検討された。

ドナーとなる兄への説明で適切なのはどれか。

1. 兄が免疫抑制薬を内服する。
2. 全身麻酔下で骨髄液を採取する。
3. 骨髄液採取部位は翌日までドレーンを挿入する。
4. 兄の退院の目安は患者に生着が確認されるころである。

【見直し後】

【98】A さんの 3 歳年上の兄と、ヒト白血球抗原<HLA>が適合したため、血縁者間骨髄移植が検討された。
ドナーとなる A さんの兄への説明で適切なのはどれか。
1. 免疫抑制薬を内服する。
2. 全身麻酔下で骨髄液を採取する。
3. 翌日まで骨髄液の採取部位にドレーンを挿入する。
4. 退院の目安は A さんに移植骨髄の生着が確認されるころである。

【適用した対策】

【A さんの 3 歳年上の兄】⑩
【A さんの兄】⑩
【翌日まで骨髄液の採取部位に】⑤、⑨
【A さんに】⑥
【移植骨髄の】⑥

【99】移植後 60 日。患者は軽度の移植片対宿主病<GVHD>のため退院の見通しがたがわずにいる。看護師が外出を促すと妻に付き添われて外出するが、すぐに病室に戻ってきてしまうことを繰り返している。ドナーの兄が面会に来て患者を励ますが、布団をかぶって顔を合わせずにいる。意思の疎通に問題はない。

この患者の状態でも考えられるのはどれか。

1. 被害妄想
2. 情動失禁
3. 拘禁症状
4. 兄への申し訳なさ

【見直し後】

【99】移植後 60 日目。A 氏は軽度の移植片対宿主病 graft versus host disease <GVHD>のため退院の見通しがたっていない。看護師が外出を促すと、妻に付き添われて外出するが、すぐに病室に戻ってきてしまうことを繰り返している。ドナーとなった A さんの兄が面会に来て A さんを励ますが、布団をかぶって顔を合わせない。意思の疎通に問題はない。
A さんの状態でも考えられるのはどれか。
1. 被害妄想
2. 情動失禁
3. 拘禁症状
4. 兄への申し訳なさ

【適用した対策】

【60 日目】③
【graft versus host disease】⑩
【たっていない】①
【、】⑦
【ドナーとなった A さんの兄】③、⑩
【A さんを】⑥
【合わせない】①
【A さんの】⑥

次の文を読み【100】～【102】の問いに答えよ。

80 歳の女性。自宅で長男との 2 人暮らし。明け方にトイレに行こうとして廊下でつまずき転倒し、左大腿骨頸部骨折と診断され内固定術を受けた。術後は順調に経過し、杖を使った歩行が安全にできるようになり 1 週後の自宅退院が決定した。下肢の筋力および認知機能の低下はない。

【見直し後】

次の文を読み【100】～【102】の問いに答えよ。
A さん(80 歳、女性)は、自宅で長男と 2 人で暮らしである。
A さんは、明け方にトイレに行こうとして廊下でつまずき、転倒した。病院を受診し、左大腿骨頸部骨折と診断され、内固定術を受けた。
術後は順調に経過し、杖を使った歩行が安全にできるようになり、1 週間後の自宅への退院が決定した。A さんに下肢の筋力、および認知機能の低下はない。

【適用した対策】

【A さんへは、】⑥、⑦
【である】⑥
【A さんは、】⑥、⑦
【転倒した。】⑦
【病院を受診し、】⑥
【fracture of the femoral neck】⑩
【、】⑦
【1 週間後】③
【自宅への退院】⑤
【A さんに】⑥

【100】再転倒予防のために確認すべき自宅の情報で優先度が高いのはどれか。

1. 延べ床面積
2. 調理台の高さ
3. 廊下の床の状態
4. 玄関の間口の広さ

【見直し後】

【100】A さんが再び転倒しないために確認する A さんの自宅の情報で優先度が高いのはどれか。
1. 延べ床面積
2. 調理台の高さ
3. 廊下の床の状態
4. 玄関の間口の広さ

【適用した対策】

【A さんが】⑥
【再び転倒しないために】①、⑤
【確認する】①
【A さんの】⑥

【101】杖歩行は順調に上達しているが、転倒したことを「息子に迷惑をかけた。転んだことを思い出すとおそろしくて胸がドキドキするし、また転ぶんじゃないかと思うと不安だ」と話す。

本人への言葉かけで適切なのはどれか。

1. 「絶対に転倒してはいけませんよ」
2. 「転びにくいような歩き方ができていますよ」
3. 「骨折は治ったのだからもう安心して大丈夫ですよ」
4. 「もうお年ですからなんでも息子さんに手伝って貰いましょう」

【見直し後】

【101】 A さんは杖歩行は順調に上達しているが、転倒したことを「息子に迷惑をかけた。転んだことを思い出すと、おそろしくて胸がドキドキするし、また転ぶんじゃないかと思うと不安だ」と話す。

A さんへの言葉かけで適切なのはどれか。

1. 「絶対に転倒してはいけませんよ」
2. 「転びにくいような歩き方ができていますよ」
3. 「骨折は治ったのだからもう安心して大丈夫ですよ」
4. 「もうお年ですからなんでも息子さんに手伝って貰いましょう」

【適用した対策】

- 【A さんは】 ⑥
【、】 ⑦
【A さんへの】 ⑥

【102】同居している息子は「もう一度転倒してしまったら大変なので、母が動くのは心配だ」と話す。

息子への対応で適切なのはどれか。

1. 必要なものをすべて母親の周りに置く。
2. 介護に慣れている息子がいつも歩行に付き添う。
3. 安全に歩行できていることを息子に見てもらう。
4. 夜間はおむつを使用して転倒誘発の機会を低減する。

【見直し後】

【102】同居している A さんの息子は「もう一度転倒してしまったら大変なので、母が動くのは心配だ」と話す。

A さんの息子への対応で適切なのはどれか。

1. 必要なものをすべて A さんの周りに置く。
2. 介護に慣れている息子がいつも歩行に付き添う。
3. 安全に歩行できていることを息子に見てもらう。
4. 夜間はおむつを使用して転倒の機会を減らす。

【適用した対策】

- 【A さんの息子】 ⑩
【A さんの息子への】 ⑩
【A さんの】 ⑥
【転倒の機会を減らす】 ①

次の文を読み【103】～【105】の問いに答えよ。

88 歳の男性。慢性閉塞性肺疾患<COPD>を長年患っている。他に慢性疾患の既往はなく日常生活動作はほぼ自立している。1 週間前から息苦しさが増強し、昨日から 38.0℃の発熱があつて受診した。経皮的動脈血酸素飽和度<SpO₂>82%。動脈血ガス分析(room air) : PaO₂ 45Torr、PaCO₂ 50Torr。胸部エックス線撮影の結果、右肺上葉に陰影を認め肺炎と診断された。

【見直し後】

次の文を読み【103】～【105】の問いに答えよ。

A さん(88 歳、男性)は、長年、慢性閉塞性肺疾患<COPD>
chronic obstructive pulmonary disease

を患っている。他に慢性疾患の既往はなく、日常生活動作<ADL>はほぼ自立している。1 週間前から息苦しさが増し、昨日から 38.0℃の発熱があつて受診した。経皮的動脈血酸素飽和度<SpO₂>82%であり、動脈血ガス分析(room air) 値は PaO₂45Torr、PaCO₂50Torr であつた。

胸部エックス線撮影の結果、右肺上葉に陰影を認め、肺炎と診断された。

pneumonia

【適用した対策】

- 【A さん(88 歳、～)】 ⑥
【長年、～患っている】 ⑨
【chronic obstructive pulmonary disease】
⑩
【、】 ⑦
【<ADL>】 ⑫
【1 週間前】 ③
【増し】 ①
【動脈血ガス分析(room air)値】 ③
【～であつた】 ⑥
【、】 ⑦
【pneumonia】 ⑪

【103】このときの所見で見られる可能性が高いのはどれか。

1. 胸部の打診での過共鳴音
2. 吸気と呼気との長さの比がほぼ 2 : 1
3. 右胸の下肺野付近の皮膚に皮下気腫
4. 胸郭の前後径と左右径との比がほぼ 1 : 2

【見直し後】

【103】このときの所見で A さんにみられる可能性が高いのはどれか。

1. 胸部の打診での過共鳴音
2. 吸気と呼気との長さの比がほぼ 2 : 1
3. 右胸の下肺野付近の皮膚に皮下気腫
4. 胸郭の前後径と左右径との比がほぼ 1 : 2

【適用した対策】

- 【A さんに】 ⑥

【104】入院し、抗菌薬の点滴静脈内注射と酸素投与とが開始された。

今後の発生に最も注意が必要なのはどれか。

- 1.腹水
- 2.脱水症状
- 3.高血糖症状
- 4.CO₂ナルコーシス

【見直し後】

【104】Aさんは入院し、抗菌薬の点滴静脈内注射と酸素投与とが開始された。

今後、Aさんに現れる症状として最も注意が必要なのはどれか。

- 1.腹水
- 2.脱水症状
- 3.高血糖症状
- 4.CO₂ナルコーシス

【適用した対策】

【Aさんは】⑥

【今後、発生する症状として】①、③、⑥

【105】その後順調に回復したため退院が決まった。患者はエレベータのない公営住宅の4階に1人で暮らしており、近隣に家事を手伝ってくれる親戚や友人はいない。食事は不規則でインスタント食品ばかりである。

退院指導で入れるべき内容はどれか。2つ選べ。

- 1.嚥下訓練
- 2.水分制限
- 3.毎日の散歩
- 4.外出後の手洗い
- 5.配食サービスの紹介

【見直し後】

【105】Aさんはその後順調に回復したため、退院が決まった。Aさんはエレベータのない公営住宅の4階に1人で暮らしている。近くに家事を手伝ってくれる親戚や友人はいない。食事は不規則でインスタント食品ばかりを食べている。Aさんへの退院指導で入れるべき内容はどれか。2つ選べ。

- 1.嚥下訓練
- 2.水分制限
- 3.毎日の散歩
- 4.外出後の手洗い
- 5.配食サービスの紹介

【適用した対策】

【Aさんは】⑥

【、】⑦

【Aさんは】⑥

【暮らしている。】⑦

【近くに】①

【インスタント食品ばかりを食べている】③

【Aさんへの】⑥

次の文を読み【112】～【114】の問いに答えよ。

35歳の初産婦。妊娠38週0日。昨日午後8時に陣痛が開始し、本日の午前1時に入院した。午後1時に羊水流出感があり、診察で破水と子宮口全開大が確認された。午後3時30分に児娩出、午後3時45分に胎盤娩出となった。分娩時出血量は600mlであった。

【見直し後】

次の文を読み【112】～【114】の問いに答えよ。

35歳の初産婦Aさんは、妊娠38週0日である。昨日、午後8時に陣痛が開始し、本日の午前1時に入院した。午後1時に羊水の流出感があり、診察で破水と子宮口の全開大が確認された。午後3時30分に児を娩出し、午後3時45分に胎盤を娩出した。分娩時出血量は600mlであった。

【適用した対策】

【Aさん】①

【、】⑤

【羊水の流出感】⑤

【子宮口の全開大】⑤

【児を娩出し】⑤⑥

【胎盤を娩出した。】④、⑤

【112】分娩経過のアセスメントで正しいのはどれか。

- 1.早産である。
- 2.早期破水である。
- 3.分娩所要時間は19時間30分である。
- 4.分娩時出血量は正常範囲を逸脱している。

【見直し後】

【112】Aさんの分娩経過のアセスメントで正しいのはどれか。

- 1.早産である。
- 2.早期破水である。
- 3.分娩所要時間は19時間30分である。
- 4.分娩時出血量は正常範囲を超えている。

【適用した対策】

【Aさんの】⑥

【超えている】①

【113】産褥 1 日。体温 37.1℃。脈拍 66/分。血圧 120/70mmHg。子宮底臍高、子宮収縮は輪状マッサージ後に良好、赤色悪露が中等量みられる。会陰縫合部痛があり、尿意ははっきりしない。乳房緊満はなく、乳腺開口は左右とも 4 本程度である。

褥婦への生活指導で適切なのはどれか。

1. 「授乳は休みましょう」
2. 「乳房を温巻法しましょう」
3. 「骨盤底筋体操をしましょう」
4. 「3、4 時間ごとに排尿しましょう」

【見直し後】

【113】産褥 1 日目。A さんは体温 37.1℃、脈拍 66/分、血圧 120/70mmHg である。子宮底の位置は臍高、子宮収縮は輪状マッサージ後に良好になった。赤色悪露が中等量みられる。会陰縫合部痛があり、尿意ははっきりしない。乳房緊満はなく、乳腺開口は左右とも 4 本程度である。

A さんへの生活指導で適切なのはどれか。

1. 「授乳は休みましょう」
2. 「乳房を温巻法しましょう」
3. 「骨盤底筋体操をしましょう」
4. 「3、4 時間ごとに排尿しましょう」

【適用した対策】

- 【1 日目】③
- 【A さんは】⑥
- 【である】⑥
- 【子宮底の位置は臍高】③、⑤
- 【なった】⑥
- 【A さん】⑥

【114】産褥 5 日。体温 36.8℃。脈拍 70/分。血圧 120/72mmHg。子宮底臍下 4 横指、子宮収縮良好、赤褐色悪露少量。母乳分泌は良好である。Hb10.6g/μl、Ht31%。

食事指導で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 塩分摂取量は 7g 未満/日とする。
2. 鉄分を多く含む食品の摂取を勧める。
3. 緑茶や紅茶で十分な水分摂取を行う。
4. 脂肪エネルギー比率を 20%未満にする。
5. エネルギーの付加は 450kcal/日程度とする。

【見直し後】

【114】産褥 5 日目。A さんは体温 36.8℃、脈拍 70/分、血圧 120/72mmHg である。子宮底の位置は臍下 4 横指、子宮収縮は良好で、赤褐色悪露は少量である。母乳分泌は良好である。血液検査データは Hb10.6g/μl、Ht31%である。

A さんへの食事指導で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 塩分摂取量は 7g 未満/日とする。
2. 鉄分を多く含む食品の摂取を勧める。
3. 緑茶や紅茶で十分な水分摂取を行う。
4. 脂肪エネルギーの比率を 20%未満にする。
5. エネルギーの付加は 450kcal/日程度とする。

【適用した対策】

- 【5 日目】③
- 【A さんは】⑥
- 【である】⑥
- 【子宮底の位置は】③、⑤
- 【子宮収縮は良好】⑤
- 【赤褐色悪露は少量である】⑥
- 【血液検査データは】③
- 【である】⑥
- 【A さんへの】⑥
- 【脂肪エネルギーの比率】⑤

看護師国家試験の概要

- 看護師国家試験は、看護師として必要な知識及び技能について問うものである。
- 毎年約 5 万人が看護師国家試験を受験しており、合格者には看護師籍への登録を経て看護師免許証が交付される。従って、適切な医療・看護の実践と医療安全の確保のため、国家試験の質を保証することが求められている。

1. 看護師国家試験について

看護師国家試験は看護師として必要な知識及び技能について行う(保健師助産師看護師法第 17 条)。

2. 試験科目

(保健師助産師看護師法施行規則第 22 条)

- 人体の構造と機能
- 成人看護学
- 疾病の成り立ちと回復の促進
- 老年看護学
- 社会保障制度と生活者の健康
- 小児看護学
- 基礎看護学
- 母性看護学
- 在宅看護論
- 精神看護学

3. 出題数及び問題形式

- 総数は 240 題で、必修問題 50 題、一般問題 130 題及び状況設定問題 60 題から成る。
- 写真などの視覚素材による問題も含む。
- 客観式、多肢選択式による。

4. 試験問題の作成

保健師助産師看護師試験委員により作成(保健師助産師看護師法施行規則第 23 条)。

5. 最近の看護師国家試験結果

	第 97 回 (H20 年 2 月 24 日)	第 98 回 (H21 年 2 月 22 日)	第 99 回 (H22 年 2 月 21 日)
受験者数	51,313 名	50,906 名	52,883 名
(EPA による看護師候補者)	—	82 名	254 名
合格者数	46,342 名	45,784 名	47,340 名
(EPA による看護師候補者)	—	0 名	3 名
合格率	90.3%	89.9%	89.5%
(EPA による看護師候補者)	—	0%	1.2%

6. 次回試験日

第 100 回看護師国家試験 平成 23 年 2 月 20 日

7. 試験地

北海道、青森県、宮城県、東京都、愛知県、石川県、大阪府、広島県、香川県、福岡県、沖縄県

経済連携協定（EPA）に基づく外国人看護師・介護福祉士受入事業

平成22年度予算額 **869,245 (82,993) 千円**

※（ ）内は平成21年度予算額

1 看護・介護導入研修、巡回指導等 **146,740 (82,993) 千円**

(1) 看護・介護導入研修経費

- 入国した看護師・介護福祉士候補者に対して受入施設で就労する前の看護・介護分野の基礎研修

(2) 受入施設巡回指導・相談専門員経費

- 受入施設を巡回訪問し、看護師・介護福祉士候補者の就労・研修の状況を把握。必要な場合は雇用管理に関する指導及び研修方法等の指導を実施。（看護又は介護専門家及び日本語専門家が同行）
- 看護師・介護福祉士候補者及び受入れ施設からの相談・苦情対応

(3) 国家試験問題の翻訳（尼語・英語）

- 過去の国家試験問題を翻訳し候補者へ提供

2 看護師候補者受入施設に対する研修支援 **370,242 (0) 千円**

(1) 受入施設研修担当者会議開催経費

- 受入の好事例の発表
- 施設同士の情報共有の場を提供

(2) 外国人看護師候補者受入施設に対する支援事業

- 受入施設の研修支援体制の充実を図るため研修指導者経費、物件費等を支援
- 1施設当たり 295 千円

(3) 外国人看護師候補者就労支援対策事業

- 就労上必要な日本語能力を高めるため、日本語学校等への修学又は講師の派遣による研修の実施等に係る経費を支援
- 候補者1人当たり 117 千円

(4) 外国人看護師候補者看護専門・日本語習得研修支援事業

- eラーニングを活用し、看護専門分野を中心とした日本語習得のための継続的な自己学習の環境を整備
- 上記学習システムにて、日本語及び看護分野の専門家が候補者個々のレベル

に応じた指導を実施

- 定期的な集合研修の実施により習得度の評価を行い、段階的な学習指導を行う研修支援体制を構築
- 看護専門家及び日本語専門家による巡回訪問の際に、受入施設の管理者、研修担当者及び候補者に対し、研修のフォローアップを行う。

3 介護福祉士候補者受入施設に対する研修支援 **352,263 (0) 千円**

(1) 受入施設日本語習得支援事業

- 受入施設における継続的な日本語研修（日本語講師の受入施設への派遣、日本語学校や養成校への通学）に係る経費を支援
- 候補者1人当たり年間 235 千円以内

(2) 日本語定期研修事業

- 集合研修で確認テストの実施、習得度の評価、個々の候補者に応じた適切な学習方針の提示などを実施
- 研修期間中に確認された候補者ごとの日本語習得度や適切な学習方針については、受入施設にもフィードバックし、候補者及び受入施設が一体となって計画的に日本語を習得できるよう支援